

アニュアルレポート 2024

地理環境学域／地理環境学科

東京都立大学

大学院 都市環境科学研究科 地理環境学域

都市環境学部 地理環境学科

目次

1 地形・地質学研究室	1
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果 (2024 年度)	
2 気候学研究室	9
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果 (2024 年度)	
3 環境地理学研究室	16
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果 (2024 年度)	
4 地理情報学研究室	21
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果 (2024 年度)	
5 都市・人文地理学研究室	26
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果 (2024 年度)	
6 特定学術研究	31
7 学位論文	34

1 地形・地質学研究室

1) スタッフ

教授：鈴木 毅彦（地形学、第四紀学、火山学）

准教授：白井 正明（堆積学、第四紀地質学、海洋地質学）

助教：石村 大輔（変動地形学、第四紀地質学）

2) 研究概要

地形・地質学研究室では将来の地球環境変化を予測することを最終的な目標として、将来予測に必要な過去の環境変化や地形形成過程など、大地に刻まれた情報を解明する研究を行っている。現在および最近の地質時代（第四紀）の地形・地質に関連する様々な現象が主要な研究対象である。

1. 地形や地質に着目して第四紀（現在～数百万年前）におきた現象を10万年～10年の精度で復元し、環境変動史・災害史を構築する。
2. 日本列島とその周辺域に分布する火山噴出物に注目し、爆発的な火山の噴火史とそれにとまなう地形変化を明らかにし、火山災害や噴火による環境変化の解明に取り組む。
3. 河床や段丘、ラハール堆積物などの堆積粒子（砂粒や礫）の特徴（配列や形状など）を調べ、堆積物の生成－運搬－堆積過程を推測する。
4. 日本列島近海の堆積物の解析を行い、過去の災害史や人類活動の影響を明らかにする。
5. 断層運動（地震）によって直接的・間接的に形成された地形や堆積物を対象に、地震の履歴や断層の活動度を明らかにし、地震の発生メカニズム解明やハザード評価に資する研究を行う。
6. 海成段丘・河成段丘を調査し、数10万年前以降の地形発達史と地殻変動を明らかにする。

3) 研究成果（2024年度）

原著論文・展望論文（査読付きの論文）

Davies, S.M., Albert, P.G., Bourne, A.J., Owen, S., Svensson, A., Bolton, M.S.M., Cook, E., Jensen, B.J.L., Jones, G., Ponomareva, V.V. and Suzuki, T. 2024. Exploiting the Greenland volcanic ash repository to date caldera-forming eruptions and widespread isochrons during the Holocene. *Quaternary Science Reviews* **334**: 108707. <https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2024.108707>

Fukushima, Y., Ishimura, D., Takahashi, N., Iwasa, Y., Malatesta, L. C., Takahashi, T., Tang, C.-H., Yoshida, K. and Toda, S. 2024. Landscape changes caused by the 2024 Noto Peninsula earthquake in Japan. *Science Advances* **10**: eadp9193. <https://doi.org/10.1126/sciadv.adp9193>

- Ishimura, D. and Hiramane, R. 2025. Dispersion, fragmentation, abrasion, and organism attachment of drift pumice from the 2021 Fukutoku-Oka-no-Ba eruption in Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* **12**: 5. <https://doi.org/10.1186/s40645-024-00678-z>
- 石村大輔・平峰玲緒奈 2024. 十和田中掬テフラの漂着軽石と降下軽石の円磨度の違い—漂着軽石を特徴付ける指標の検討—. 第四紀研究 **63**: 207-212.
- 石村大輔・加藤茂弘・岡田篤正・佐藤裕司 2024. 地下地質に基づく第四紀後期の三方五湖低地の地形発達と三方断層帯の構造発達. 地学雑誌 **133**: 485-509.
- 太田凌嘉・渡辺 樹・苅谷愛彦 2025. 巨摩山地・櫛形山周辺で新たに見出された後期更新世のテフラ. 第四紀研究 **64**: 1-12. <https://doi.org/10.4116/jaqua.64.2402>
- Vineberg, S.O., Albert, P.G., McLean, D., Suzuki, T., Staff, R.A., Yamada, K., Kitaba, I., Kitagawa, J., Manning, C.J., Buckland, H.M., Jones, G., Nishizawa, F., SG14 Project Members, Nakagawa, T. and Smith, V.C. 2024. A detailed record of large explosive eruptions from Japan between ~120 and 50 ka preserved at Lake Suigetsu. *Quaternary Science Reviews* **346**: 109021. <https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2024.109021>

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

- 小林 淳 2025. 富士山信仰の拠点となる湧水—湧玉池が育む豊かな生態系—. 富士山学 **5**: 58.
- 小林 淳 2025. 湧玉池湧水をつくった富士山噴火—定点モニタリングからみえる地下水の道のり—. 富士山学 **5**: 59-70.
- 宇津川喬子・白井正明 2024. 2019 年台風第 19 号によって運搬された巨礫の分布とその堆積学的特徴—多摩川中流域において—. 法政大学文学部紀要 **89**: 25-40.
- Watanabe, T. I. and Yoshida, K. T. 2025. Automated volcanic glass shard counting system for cryptotephra analysis using open-source hardware and software. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 121-128.

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

なし

報告書

- 小林 淳 2025. 須山口・御殿場口登山道の地形・地質状況. 静岡県富士山世界遺産センター・御殿場市・裾野市, 富士山巡礼路報告書 須山口登山道・御殿場口登山道: 21-33. (部分執筆)

書評

- 高橋尚志 2025. 書評(小野映介・佐藤善輝著: 地形環境史研究—地理学と考古学・歴史学の接点). 地理学評論 **98A**: 64-65.

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

石村大輔・楮原京子・熊木洋太・田力正好 2024. 1:25,000 活断層図「平泉」. 国土地理院.

小林 淳 2025. 富士山噴火の痕跡を巡る(その5)ー富士相模川泥流:富士山北麓で発生した噴火が引き起こした大規模火山泥流ー. 富士山世界遺産コラム: 33.

小林 淳 2024. 富士山噴火の痕跡を巡る(その4)ー裾野溶岩流:景ヶ島溪谷 屏風岩の柱状節理ー. 富士山世界遺産コラム: 27.

宇津川喬子 2024. 礫の外形評価へのカーネル密度解析の適応. GISNEXT 89: 45.

講演・学会発表

青木かおり・石村大輔・高橋尚志 2024. 青森県野辺地町目ノ越の海食崖で見られる海成層と開析谷の年代と形成過程. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: HQR05-P01, 5 月, 千葉.

段上清香 2024. 韭崎岩屑なだれの規模と流れ山の特徴. 2024 年度全国地理学専攻学生卒論論文発表大会, 3 月, オンライン.

福嶋 徹・鈴木毅彦・福嶋 泉・山川千代美 2025. 200 万年前の海と陸の生物が重なる大地から新たに産出した化石埋没林の意義. 多摩地域の化石ー可視化展. 3 月, 昭島.

Fukushima, Y., Ishimura, D., Takahashi, N., Takahashi, T. and Toda, S. 2024. Three-dimensional displacement field associated with the 1 Jan. 2024 Noto Peninsula earthquake obtained from SAR pixel offset analysis. *Abstracts of Japan Geoscience Union Meeting 2024*: STT35-P02, May, Chiba.

Fukushima, Y., Ishimura, D., Takahashi, N., Iwasa, Y., Malatesta, L., Takahashi, T., Tang, C., Yoshida, K. and Toda, S. 2024. Landscape changes associated with the 2024 Noto Peninsula Earthquake, Japan, revealed through integration of geodetic and geomorphological approaches. *AGU 2024 Annual Meeting*: NH51B-01, December, Washington D.C., USA.

原 勇貴・遠田晋次・高橋尚志・鳥井真之・塚脇真二 2024. 令和 6 年能登半島地震に伴い発生した内灘町の液状化・側方流動による地表変状の分布からみた地形変化の影響. 一般社団法人日本応用地質学会東北支部第 30 回研究発表会講演集: 15-16, 7 月, 仙台.

原 勇貴・遠田晋次・高橋尚志・鳥井真之・塚脇真二 2024. 令和 6 年能登半島地震に伴う内灘町の液状化による地表変状と人工地形改変・地質構造との関係. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: U15-P106, 5 月, 千葉.

橋本真由・鈴木毅彦 2024. 御岳第 1 テフラを事例とした給源からの距離と火山ガラスの形態の関係ー屈折率による降下ユニット認定と気泡幅の変化を中心にー. 日本地質学会第 131 年学術大会要旨集: T15-P-36, 9 月, 山形.

橋本真由・鈴木毅彦 2024. 給源火山からの距離による火山ガラスの気泡幅の変化. 日本第四紀学会講演要旨集 54: 43, 8 月, 仙台.

- 平峰玲緒奈・石村大輔・山田圭太郎 2024. 南西諸島で発見された硫黄島由来の漂着軽石. 日本地球惑星科学連合大会 2024 年大会: SCG54-10, 5 月, 千葉.
- 本間海那・白井正明 2024. 海浜堆積物の粒度特性から検討した新潟県寺泊海岸から新潟海岸南部における海岸砂の移動. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 34-35, 4 月, 熊本.
- Homma, H., Tamura, T. and Shirai, M. 2024. Residual luminescence signal and grain size of beach sand reveal longshore transport beyond multiple headlands bounding pocket beaches. *Abstracts for IGCP725 "Forecasting Coastal Change" Second Annual Meeting*: 70, September, Quezon, Philippines.
- 石村大輔 2025. 現世海岸や堆積物中に存在する漂着軽石の分布・産状の把握. 即戦力となる火山人材育成プログラム 令和 6 年度成果報告シンポジウム, 3 月, オンライン.
- 石村大輔 2024. 伊豆・小笠原諸島の火山と軽石漂流. 東京都立大学公開講座, 7 月, 小笠原.
- Ishimura, D. 2024. How do we know paleo-hazards and link them to future disaster risk assessment? 11th Japanese-French Frontiers of Science (JFFoS) Symposium, Session 5: Uncovering Paleo Disasters and Human Impacts on Modern Earth Science (Earth Science/Geosciences/Environment), May, Strasbourg, France.
- Ishimura, D. 2024. Characteristics of drift pumice from the 2021 Fukutoku-Oka-no-Ba eruption in Japan. 11th Japanese-French Frontiers of Science (JFFoS) Symposium, May, Strasbourg, France.
- 石村大輔・遠田晋次 2024. 近年の内陸大地震にみる地表地震断層の解釈に関する課題. 日本地活断層学会 2024 年度秋季学術大会及びシンポジウム講演予稿集: 19-20, 11 月, 長野.
- 岩佐佳哉・濱 侃・杉田 暁・石村大輔・L. C. Malatesta・中田 高 2024. 低価格モバイル LiDAR と CLAS-GNSS を用いた令和 6 年能登半島地震に伴う地形変化の調査. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: U15-P91, 5 月, 千葉.
- 神馬菜々美・鈴木毅彦・谷口 央 2024. 歴史資料を活用した伊豆大島における 19 世紀噴火活動の復元. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: SVC26-P14, 5 月, 千葉.
- 川畑美桜子・鈴木毅彦 2024. 利尻ワンコの沢テフラおよび利尻豊徳テフラの詳細な記載とそれからみた噴火推移. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: SVC26-P02, 5 月, 千葉.
- 清塚義明・山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・中西 諒・前橋克哉 2024. 逆解析手法を用いた水理条件の推定: 石川県能登町内浦地区における津波堆積物への適用. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 8, 4 月, 熊本.
- 小林 淳 2024. 私たちの世界遺産「富士山学」ー藤枝・静岡の大地の成り立ちと噴火の影響ー. 藤枝市民大学一般教養コース(地域学講座), 12 月. 藤枝.
- 小林 淳 2024. 富士山の噴火史研究とその成果に基づくハザードマップ・防災計画の改定. 静岡県教育研究会理科教育研究部夏季研究大会, 8 月, 富士.
- 小林 淳 2024. 富士山の噴火と火山防災ーハザードマップから見える警戒・避難のあり方ー. 静岡大学東部市民講座, 6 月, 沼津.

- 前橋克哉・山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・中西 諒・清塚義明 2024. 現地調査と津波数値計算に基づく 2024 年能登半島地震津波の波源推定. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 4, 4 月, 熊本.
- Malatesta, L.C., Weiss, N., Ishimura, D., Gailleton, B., Nishimura, T., Takahashi, N., Tsukamoto, S., Komatsu, T., Iwasa, Y., Sueoka, S. and Kataoka, K. 2024. The 2024 Noto Peninsula Earthquake and the million year preceding it. *Abstracts of Japan Geoscience Union Meeting 2024*: U16-05, May, Chiba.
- Malatesta, L.C., Weiss, N., Tsukamoto, S., Sueoka, S., Ishimura, D., Gailleton, B., Nishimura, T., Takahashi, N., Kataoka, S.K., Komatsu, T. and Iwasa, Y. 2024. The 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula Earthquake illuminates a past shift in tectonic plate boundaries across Central Japan. *AGU 2024 Annual Meeting*: EP21C-03, December, New Orleans, USA.
- 中村義也・石村大輔 2024. 山体重力変形の主要発達要因と断層の分布が与える影響. 日本活断層学会 2024 年度秋季学術大会及びシンポジウム講演予稿集: 5-6, 11 月, 長野.
- 中西 諒・山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・清塚義明・前橋克哉 2024. 土砂移動計算を用いた 2024 年能登半島地震による沿岸津波波形の復元. 日本第四紀学会講演要旨集 **54**: 31, 8 月, 仙台.
- 中西 諒・山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・清塚義明・前橋克哉 2024. 2024 年能登半島地震による津波堆積物の土砂移動計算による再現. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 6, 4 月, 熊本.
- 佐々木聡史・藤森一真・山田昌樹・河潟俊吾・石村大輔 2024. 南三陸町大沼における津波堆積物の微化石群集(予察). 日本地質学会第 131 年学術大会要旨集: T16-O-6, 9 月, 山形.
- 白井正明・河尻清和・宇津川喬子 2024. 基質の岩種組成から考える相模川上流域での富士相模川ラハール堆積物の特徴. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: HQR05-P07, 5 月, 千葉.
- 白井正明・宇津川喬子・河尻清和 2024. 基質の岩種組成から考える富士—相模川ラハールの流下の様相(その2). 日本第四紀学会講演要旨集 **54**: 62, 8 月, 仙台.
- 白井正明・宇津川喬子・河尻清和 2024. 相模川(桂川)上流域における富士相模川泥流堆積物の再評価. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 40, 4 月, 熊本.
- 諏訪貴一・高橋尚志・遠田晋次・市川玲輝 2024. 東北地方, 栗駒火山における完新世の水蒸気噴火堆積物の層序と規模. 日本第四紀学会講演要旨集 **54**: 47, 8 月, 仙台.
- 鈴木毅彦 2025. 海からみる伊豆諸島の火山. 飛鳥Ⅱ: 海の上の東京クルーズ, 3 月, 太平洋上.
- 鈴木毅彦 2025. 多摩地域のボーリングコアと産出化石の不思議なお話し. 多摩地域の化石—可視化展, 3 月, 昭島.
- 鈴木毅彦 2024. 武蔵野台地南部, 大田〜世田谷の地形と地下地質—東久留米層および北多摩層を中心に—. リニア中央新幹線建設工事差止め原告団講演会, 11 月, 大田区.
- 鈴木毅彦 2024. 23 区と多摩の地形の成り立ち. 2024 年度早稲田大学オープンカレッジ, 東京の「でこぼこ」風景を読む—地形・地質の 300 万年形成史, 6 月, 中野区.

- 鈴木毅彦 2024. 関東平野からみた東京の地形・地質. 2024 年度早稲田大学オープンカレッジ, 東京の「でこぼこ」風景を読む—地形・地質の 300 万年形成史, 6 月, 中野区.
- 鈴木毅彦・菅澤大樹・川畑美桜子・橋本真由・神馬菜々美 2024. 関東平野東端, 犬吠層群春日層・小浜層に含まれる前期更新世テフラのカatalog. 日本第四紀学会講演要旨集 **54**: 53, 8 月, 仙台.
- 鈴木毅彦・正田浩司・橋本真由・川畑美桜子・神馬菜々美・菅澤大樹 2024. テフロクロノロジーに基づく関東平野西部多摩丘陵上総層群の編年. 日本地質学会第 131 年学術大会要旨集: G6-O-6, 9 月, 山形.
- 鈴木毅彦・正田浩司・橋本真由・川畑美桜子・神馬菜々美・菅澤大樹 2024. 多摩丘陵上総層群に記録された氷期・間氷期サイクルと海洋酸素同位体ステージ—前期更新世テフラに基づく検討. 日本第四紀学会講演要旨集, **54**: 16, 8 月, 仙台.
- 鈴木毅彦・川畑美桜子・神馬菜々美・菅澤大樹・Albert, P., Molly, F. and Manning, C. 2024. 1.5–0.9 Ma に噴出した白河火砕流堆積物群の噴火規模と年代に関する再検討. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: SVC30-P08, 5 月, 千葉.
- 高橋直也・石村大輔・太田凌嘉・荒井悠希・山根悠輝 2024. 源流部における粒径変化の岩種依存性: 岩盤強度と礫供給源の影響. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: ACG43-P03, 5 月, 千葉.
- 高橋直也・石村大輔・山田圭太郎・太田凌嘉・荒井悠希・山根悠輝 2025. 源流部における堆積物粒子の形状変化. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 242, 3 月, 世田谷.
- Takahashi, N., Fukushima, Y., Ishimura, D., Iwasa, Y., Malatesta, L.C., Takahashi, T., Tang, C., Yoshida, K. and Toda, S. 2024. Landscape changes caused by the 2024 Noto peninsula earthquake and its relation to the long-term landscape evolution. *Abstracts of Japan Geoscience Union Meeting 2024*: U16-P01, May, Chiba.
- 高橋尚志・山根悠輝・諏訪貴一 2024. 1923 年大正関東地震に伴って発生した神奈川県西部における斜面崩壊の規模—頻度分布. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: HGM03-08, 5 月, 千葉.
- Takahashi, T., Yamane, Y., Suwa, K. and Toda, S. 2024. Estimated volume and magnitude-frequency distribution of landslides induced by the 1923 Kanto Earthquake (Mw 7.9) in the western Kanagawa Prefecture, central Japan. *AGU 2024 Annual Meeting*: NH11C-2243, December, Washington D.C., USA.
- 高橋尚志・市川玲輝・諏訪貴一・小倉拓郎・遠田晋次 2024. 東北地方, 栗駒火山における中期完新世以降のラハール堆積物と泥質テフラの規模と年代. 季刊地理学 **76**: 146, 5 月, 仙台.
- 高橋尚志・杉浦論文・鈴木比奈子・堀 和明・遠田晋次 2025. 迫川の沖積低地の地形発達および伊豆沼・内沼の成立過程に関する研究. 栗駒山麓ジオパーク学術研究助成成果報告会, 3 月, 栗原.

- 田村裕彦・小倉拓郎・高橋尚志・佐藤昌人・小口千明 2025. 神奈川県柏尾川流域における地下文化遺産を活用した災害リスク評価のための基礎調査. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 314, 3 月, 世田谷区.
- Tang, C., Fukushima, Y., Toda, S., Yoshida, K., Takahashi, N. and Takahashi, T. 2024. Extreme coseismic uplift and faulting complexity during the January 1, 2024, Mw 7.5 Noto Peninsula earthquake. *Abstracts of Japan Geoscience Union Meeting 2024*: SGD02-P10, May, Chiba.
- 太矢敦士・山田昌樹・高橋尚志 2024. 画像解析を用いた礫質碎屑物の円磨度に基づく河成段丘礫層の本流性—支流性の識別手法の検討: 道志川とその支流域を例に. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: HGM03-P05, 5 月, 千葉.
- 遠田晋次・石村大輔 2024. 令和 6 年能登半島沖地震と半島南東岸の短い活断層—短い活断層は起震断層になりえるか. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: SSS11-05, 5 月, 千葉. (招待講演)
- 宇津川喬子・白井正明 2024. 常磐海岸の海成段丘構成層における中礫の供給源推定の試み: 礫のかたちに焦点をあてて. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 21-22, 4 月, 熊本.
- Watanabe, M., Masselink, G., McCall, R.T., Ishimura, D., Yamada, M. and Switzer, A.D. Numerical modelling of gravel transportation by the 2011 tsunami at Koyadori, Japan, with Xbeach-G. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference, July, Sapporo.
- 渡辺 樹・石村大輔 2024. 関田山地に認められる断層変位地形と山体重力変形との関係. 日本活断層学会 2024 年度秋季学術大会及びシンポジウム講演予稿集: 3-4, 11 月, 長野.
- 渡辺 樹・中村義也 2024. 高精細 DEM データの立体視判読に基づく火山体で認められる山体重力変形地形の分布と特徴. 日本火山学会講演予稿集 2024 年度秋季大会: 231, 10 月, 札幌.
- 渡辺 樹・石村大輔・青木かおり・高橋尚志 2024. 新期御岳火山下部テフラ群の記載岩石学的特徴と広域対比に関する再検討. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: SVC30-P12, 5 月, 千葉.
- 山田圭太郎・石村大輔・鳴澤美羽・石澤堯史・山田昌樹 2024. 画像解析ソフト Rgrains を用いた粒子形状の定量化. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 12, 4 月, 熊本.
- Yamada, M., Fujino, S., Ishimura, D., Kusumoto, S., Wang, Y., Yamaguchi, K., Kaneko, R. and Satake, K. 2024. Mega-tsunami Generated by the 7.3 ka Eruption of the Kikai Caldera: Geological Traces and Numerical Tsunami Calculations Revealed the Whole Picture. The International Workshop on Mega Earthquakes and Tsunamis – Progress in 20 Years since the 2004 Sumatra-Andaman Earthquake and Future Perspectives, June, Bunkyo-ku.
- Yamada, M., Naruse, H., Ishimura, D., Nakanishi, R., Maehashi, K. and Kiyozuka, Y., 2024. Tsunami behaviour inferred from widespread tsunami deposits in Noto Town by the 2024 Noto Peninsula earthquake. The 18th East Eurasia International Workshop, 2024-18, October, Shimane.

- 山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・中西 諒・前橋克哉・清塚義明 2024. 2024 年能登半島地震による能登町での津波の挙動と津波堆積物. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: MIS20-05, 5 月, 千葉.
- 山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・中西 諒・前橋克哉・清塚義明 2024. 2024 年能登半島地震によって石川県珠洲市～能登町に形成された津波堆積物. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: U15-P73, 5 月, 千葉.
- 山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・中西 諒・前橋克哉・清塚義明 2024. 2024 年能登半島地震による津波痕跡および津波堆積物の緊急調査. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 2, 4 月, 熊本.
- 山田昌樹・成瀬 元・石村大輔・中西 諒・前橋克哉・清塚義明 2024. 2024 年能登半島地震に伴う隆起によって出現した現世上部外浜堆積物の露頭. 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 63, 4 月, 熊本.
- 山田眞嵩・鈴木毅彦 2024. 東北日本北部背弧側に分布する鮮新統, 上部七座凝灰岩の層序と給源. 日本第四紀学会講演要旨集 54: 28, 8 月, 仙台.
- 山田素子・石村大輔・白井正明・本間海那 2024. 令和 6 年能登半島地震に伴う隆起により露出した現世浅海堆積物の特徴(速報). 日本堆積学会 2024 年熊本大会講演要旨集: 65-66, 4 月, 熊本.
- 山根悠輝・遠田晋次・鳥井真之・原 勇貴・石村大輔・高橋直也・奥野 充・福田泰英 2024. 活断層は地表付近で同様の地層の変位・変形を繰り返すのかー2016 年熊本地震前の布田川断層トレンチの再掘削からの考察. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: SSS11-10, 5 月, 千葉.
- 吉田健太・多田訓子・佐藤智紀・北田数也・羽生 毅・浜田盛久・McIntosh, I・萩原雄貴・平峰玲緒奈・高井星香・原野あゆ・黒田真奈加・田村芳彦・小野重明 2024. 西之島北東に見られる玄武岩質の古い海丘. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: SCG54-03, 5 月, 千葉.
- 吉田優駿・石村大輔・渡辺 樹 2024. 四国地方中東部の山地部における高精度 DEM に基づく活断層分布. 日本活断層学会 2024 年度秋季学術大会及びシンポジウム講演予稿集: 49-50, 11 月, 長野.

2 気候学研究室

1) スタッフ

教授：高橋 日出男（都市気候学、気候変動、降水現象に関する気候学）

教授：飯島 慈裕（気候学、大気陸面相互作用、気候変動の超学際研究）

助教：高橋 洋（アジアモンスーン、雲降水気候学、領域気候モデリング）

特任准教授：濱田 純一（熱帯気候学、気象観測）

特任研究員：瀬戸 芳一（都市気候学、局地気候学、統計解析）

特任研究員：野津 雅人（熱帯気候学、衛星気象学）

特任研究員：Anu Gupta（モンスーン気候学）

2) 研究概要

気候学研究室では、地球規模での気候変化から、アジアモンスーンの形成・変動メカニズム、都市のヒートアイランド現象や集中豪雨のメカニズムの解析まで様々なスケールでの気候の研究を行っている。研究手法についても、現地での気象観測、気象観測資料や客観解析資料・衛星観測データなどのデータ解析、数値モデルを用いた気候のメカニズムの解明、と多岐にわたっており、現象のモニタリング、プロセス解明、人間活動との関係、将来予測など、多角的に気候の研究に取り組んでいる。そのため、気候や気候変化に興味のある学生さんをお待ちしている。

本研究室で現在行なわれている主な研究テーマとしては、次のようなものがある。

1. 日本およびアジアモンスーン域など世界における全球～地域スケールの気候変化・気候変動や季節変化の研究
2. 気候変動とその環境応答および人間圏の適応に関する研究
3. ヒートアイランド現象や短時間強雨の発現プロセス、都市大気の詳細構造や局地風系構造に関する観測的・統計的研究
4. 日本やアジアの天候に関連する総観～メソスケール大気現象の研究
5. 熱帯域を中心とする地表面状態と雲・降水活動の相互作用に関する研究
6. 日本およびアジアモンスーン地域を中心とする歴史時代の気候復元に関する研究

3) 研究成果(2024 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

佐藤(金子)のぞみ・飯島慈裕・岡島賢治・関谷信人・渡辺晋生 2024, UAS リモートセンシングによる水田土壌化学性の推定精度にピクセル抽出範囲と撮影高度が与える影響. 土壌の物理性 158: 29-42.

Seto, Y. and Takahashi, H. 2025. Local wind patterns and pressure fields associated with

temperature distribution in summer over the Kanto Plain, Japan. *SOLA* **21**: 34-42.
<https://doi.org/10.2151/sola.2025-005>

Takahashi, H. G. 2024. Role of tropical disturbances along the South Asian monsoon trough in the 2022 Pakistan floods and the implications for interannual variability. *Journal of Climate* **37**: 5609-5627. <https://doi.org/10.1175/JCLI-D-23-0186.1>

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

Ajayamohan, R. S., Martin, G., Turkington, T., Fujinami, H., Basconcillo, J., Annamalai, H., Jayawardena, S., Ashrit, R., Takahashi, H. G. and Koh, T. Y. 2024. Asian summer monsoon variability during 2022–2023: Beyond canonical teleconnection patterns. *GEWEX Quarterly* **33**(3): 4-7. <https://www.gewex.org/gewex-content/uploads/2024/10/Q32024.pdf>

飯島慈裕 2024. 資源開発と災害適応. 北極環境研究コンソーシアム長期構想編集委員会編『北極域の研究 その現状と将来構想』290-299. 海文堂

Nakajima, K. and Takahashi, H. 2025. Temporal and spatial structure of the local strong wind “Kiyokawa dashi” in the Shonai Plain, Yamagata prefecture, Japan. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 64-72.

Nodzu, M. I., Nomoto, R., Sugiura, T., Sengoku, K. and Matsumoto, J. 2025. Global distribution of spring precipitation. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 73-80.

Oka, A., Takahashi, H. Suzuki, H. and Oonishi, M. 2025. Recent thirty-year trends in the frequency of summertime localized intense rainfall in and around the Tokyo metropolis. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 17-24.

Seto, Y. 2025. Recent characteristics of local wind systems and temperature during nighttime in summer over the Kanto Plain. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 41-48.

瀬戸芳一・崔 麗華・國分優孝・上野広行 2024. 都内再開発地における都市緑地成長前後の暑熱環境調査. 東京都環境科学研究所年報 2024: 80-81.

Takahashi, H. G. 2024. GPC/m: Global precipitation climatology by machine learning; Quasi-global, daily, and one degree spatial resolution. *Zenodo*.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.13743725>

Takahashi, K. and Takahashi, H. 2025. Influence of the Tokyo heat island phenomenon on local wind systems at nighttime in summer. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 49-56.

Yamato, H., Takahashi, H. and Mikami, T. 2025. Factors contributing to high temperature areas on sunny summer days in the central Kanto Plain: An investigation of their relationship with the surface wind system. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 97-104.

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

なし

報告書

なし

書評

飯島慈裕 2024. 「雪と氷にすむ生きものたち」日本地球惑星科学連合ニュースレター誌 20 (3) : 23.

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

なし

講演・学会発表

阿部隆博・飯島慈裕 2024. 合成開口レーダーでみる永久凍土帯における地形変化 -数 cm の変形を宇宙から捉える-. 第 52 回可視化情報シンポジウム, 7 月, 那覇.

阿部隆博・岩花 剛・甘田 岳・飯島慈裕 2025. アラスカ・ポーカーフラットにおける衛星 SAR による地表面変位計測と現地調査. 北海道大学低温科学研究所共同研究集会「永久凍土に関連した分野横断研究に関する研究集会」, 2 月, 札幌.

Abe, T., Iwahana, G., Amada, G. and Iijima, Y. 2024. Seasonal surface displacement associated with freeze-thaw cycles in interior Alaska revealed by ALOS-2 InSAR. American Geophysical Union Fall Meeting 2024, December, Washington DC, USA. (ポスター)

Abe, T., Iwahana, G., Amada, G. and Iijima, Y. 2024. Phase changes associated with seasonal ground surface displacement and snow cover in interior Alaska detected by ALOS-2 InSAR. FY2024 The Joint PI Meeting of JAXA Earth Observation Missions, November, Chuo-ku.

阿部隆博・岩花 剛・甘田 岳・飯島慈裕 2024. 干渉 SAR における積雪の影響:永久凍土帯での事例. 日本測地学会第 142 回講演会, 10 月, 呉. (ポスター)

阿部隆博・岩花 剛・甘田 岳・飯島慈裕 2024. アラスカ内陸部ポーカーフラットにおける凍土凍結・融解に伴う地表面季節変位と凍土環境変化. 雪氷研究大会 (2024・長岡) 講演要旨集: 204, 9 月, 長岡.

阿部隆博・岩花 剛・甘田 岳・飯島慈裕 2024. ALOS-2 干渉 SAR によるアラスカ内陸部フェアバンクス近郊における凍土凍結・融解に伴う地表面季節変位. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: ACG42-P01, 5 月, 千葉.

阿部隆博・高屋浩介・藏田典子・伊勢武史・飯島慈裕 2024. 複数の衛星データと解析から明らかになった東シベリア・レナールダン河川間の永久凍土荒廃. 日本リモートセンシング学会第 77 回学術講演会要旨集: B-11, 11 月, 山口.

- Abe, T., Takaya, K., Kurata, N., Ise, T. and Iijima, Y. 2024. Permafrost degradation in the Lena-Aldan interfluvium, Central Yakutia in eastern Siberia, revealed by multiple satellite datasets and analysis. Norwegian Geophysical Society 1st General Assembly, June, Bergen, Norway.
- 青山実樹・高橋 洋・清水慎吾 2024. 関東の平野部で発生するダウンバーストとガストフロントの研究. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**: 504, 11 月, つくば.
- 藤波初木・金森大成・高橋 洋 2025. 梅雨期における東アジアの降水の日変化. モンスーン研究集会, 2 月, 名古屋.
- 藤波初木・金森大成・高橋 洋 2024. 梅雨期における東アジアの降水の日変化. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**, 11 月, つくば.
- 五味すみれ・高橋日出男 2025. 長野県諏訪地域における塩嶺嵐の特徴: 地上気象観測データを中心として. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 215, 3 月, 世田谷区.
- 五味すみれ・高橋日出男 2024. 長野県諏訪地域における塩嶺嵐の発生状況. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**: 387, 11 月, つくば.
- 濱田純一・森 修一 2024. YMC 集中観測期間 (2015/2017) におけるスマトラ島南西沿岸域の雷活動の季節内変動. 第 15 回熱帯気象研究会講演要旨集, 9 月, ハ王子.
- 原田健生・高橋日出男 2024. 関東南岸に形成される収束線の移動機構と小低気圧形成との関係性. 第 80 回気候影響・利用研究会発表予稿集: 4-5, 12 月, オンライン.
- 飯島慈裕 2024. 北極環境研究でのロシア・シベリア研究者との交流状況 ISIRA での議論も踏まえて. 北極環境研究 (JCAR) 全体集会, 12 月, 立川.
- 飯島慈裕 2024. 北極域・北ユーラシアの気候変化に関する現在の傾向について. 雪氷研究大会 (2024・長岡) 気象水文分科会, 9 月, 長岡. (ポスター)
- Iijima, Y., Abe, T., Fujioka, Y., Saito, H., Boyakova S. and Fedorov, A. N. 2024. Climate change impacts on permafrost environment and local perception in Eastern Siberia: Implications for adaptation. The 35th International Geographical Congress 2024, August, Dublin, Ireland.
- 飯島慈裕・阿部隆博・齋藤 仁・伊勢武史・永井裕人・大石侑香・朴 昊澤・檜山哲哉 2025. 永久凍土融解に伴う L-DLB システムの形成とその影響. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **105**: 322, 3 月, 世田谷区. https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_322
- 飯島慈裕・宮崎修斗・阿部隆博 2024. C バンド後方散乱特性を用いたアラスカ北部ツンドラ湖の水深により異なる結氷状態の検出. 雪氷研究大会 (2024・長岡) 講演要旨集: 205, 9 月, 長岡.
- Iijima, Y., Takakura, H., Tabata, S. and Hiyama, T. 2025. The reality and effectiveness of the Japanese side's recent collaborative studies on Russia. Arctic Science Summit Week (ASSW) 2025 and the Fourth International Conference on Arctic Research Planning (ICARP IV) Summit 2025, March, Boulder, USA.
- Kamizawa, N., Takahashi, H. G. and Dado, J. M. B. 2024. Long-term changes in summer Asian monsoon precipitation over the past 60 years. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference, July, Sapporo. (poster)

- Kitabayashi, S. and Takahashi, H. G. 2024. Climate response to anthropogenic aerosol forcing over and around the Indian subcontinent. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference: 14-P29, July, Sapporo. (poster)
- 松本 現・高橋日出男・日下博幸 2024. 人工芝グラウンドにおける暑熱環境評価. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**: 317, 11 月, つくば.
- Matsumoto, G., Takahashi, H. and Kusaka, H. 2024. Evaluation of the thermal environment on artificial turf. The 4th Asian Conference on Meteorology (ACM) 2024, November, Tsukuba (poster).
- 松本 現・高橋日出男・日下博幸 2024. 夏季晴天日の地上気象観測に基づく、人工芝グラウンド・天然芝グラウンドにおける暑熱環境評価. 第 3 回都市極端気象シンポジウム・第 20 回台風研究会, 9 月, 宇治.
- 松崎祐太・高橋 洋 2024. 冬季のフィリピン周辺におけるコールドサージに伴う雲の発生と降水との関係. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**: 398, 11 月, つくば.
- 松崎祐太・高橋 洋 2024. フィリピン海コールドサージの降水活動に対する影響とその季節変化. 日本気象学会 2024 年度春季大会講演予稿集 **125**: 50, 5 月, 文京区.
- 宮崎修斗・飯島慈裕・阿部隆博 2024. Sentinel-1 衛星の後方散乱強度を用いたアラスカ北部ツンドラ湖の結氷状態の検出. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: STT35-P08, 5 月, 千葉.
- 野津雅人・松山 洋・松本 淳 2025. 降水季節進行の全球的な気候学的解析における GSMaP データの利用. 2024 年度 GPM および衛星シミュレータ合同研究集会要旨集: 22-23, 3 月, 名古屋・オンライン.
- 野津雅人・松山 洋・松本 淳 2025. 春・秋季降水が重要な地域の分布の全球降水データセットを用いた解析. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 225, 3 月, 世田谷区.
https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_334
- Nodzu, M. I., Matsuyama, H. and Matsumoto, J. 2024. Evaluation of the GSMaP data over the islands in the Izu Islands using the enhanced gauge observation network. FY2024 The Joint PI Meeting of JAXA Earth Observation Missions, November, Chuo-ku.
- 野津雅人・野元涼司・杉浦冬悟・仙石和正・松本 淳 2024. 春季降水が重要な地域の分布. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**: 366, 11 月, つくば.
- Nodzu, M. I., Matsuzaki, Y., Kanno, H., Matsuyama, H. and Matsumoto, J. 2024. Analyses using gauge data from dense networks of observation in small remote islands in the southeastern ocean of Japan for deeper understanding the atmospheric water cycles over the oceans. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference. July, Sapporo.
<https://www.gewexevents.org/osc-2024-week/tuesday/>
- Nodzu, M. I., Bui-Thi, K. H., Pham-Thi, T. H., Ngo-Duc, T., Matsumoto, J. and Nguyen-Vinh, T. 2024. Assessing offshore rainfall during tropical cyclones approaching Vietnam using satellite-based and surface observations. 9th Global Energy and Water Exchanges Open

- Science Conference. July, Sapporo. <https://www.gewexevents.org/osc-2024-week/tuesday/>
- 野津雅人, Bui-Thi, K. H., Nguyen-Quang, V., Pham-Thi, T. H., Ngo-Duc, T., 松本 淳, Nguyen-Vinh, T., 2024. 地上観測データをもとにした降水量の推定データを用いたベトナムにおける熱帯低気圧の関わる降水に対する GSMaP データの検証. 第 15 回熱帯気象研究会講演要旨集: 10, 9 月, ハ王子.
- Sengoku, K. and Takahashi, H. 2024. Various structures of the cold-air damming in the Kanto Plain based on the surface wind field. The 4th Asian Conference on Meteorology (ACM) 2024, November, Tsukuba. (poster)
- 仙石和正・高橋日出男 2024. 関東平野で発達する「寒気せき止め現象」の大気構造の多様性. 2024 年日本地理学会秋季学術大会発表要旨集 **106**: 34, 9 月, 名古屋.
- 仙石和正・高橋日出男 2024. 関東平野における cold-air damming の多様な構造. 第 79 回気候影響・利用研究会発表予稿集: 20-21, 4 月, オンライン.
- 仙石和正・高橋日出男・日下博幸 2024. 関東平野における cold-air damming の構造の時間変化. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**: 190, 11 月, つくば.
- 杉浦冬悟・高橋 洋 2025. 湿潤静的エネルギー収支解析による MJO の持続・衰退に寄与する要因の季節性. 学術変革領域研究(A)「ハビタブル日本: 島嶼国日本の生存基盤をなす大気・海洋環境の持続可能性」令和 6 年度領域全体会議, 3 月, 新潟. (ポスター)
- 杉浦冬悟・高橋 洋 2024. MJO と水蒸気場の発達の関係およびその季節性. 日本気象学会 2024 年度秋季大会講演予稿集 **126**: 395, 11 月, つくば.
- 杉浦冬悟・高橋 洋 2024. MJO 東進時の水蒸気場発達に現れる季節による違い. 第 10 回マッデン・ジュリアン振動研究会, 10 月, 名古屋.
- 杉浦冬悟・高橋 洋 2024. MJO の水蒸気場発達において卓越する効果の季節的な違い. 第 15 回熱帯気象研究会講演要旨集: 2, 9 月, ハ王子.
- 杉浦冬悟・高橋 洋 2024. MJO の海洋大陸における衰退とその季節性. 東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター共同利用研究集会「多様な時空間スケールの先進的気象学・気候学・大気科学」, 8 月, 大槌. (ポスター)
- Sugiura, T. and Takahashi, H. G. 2024. Overcoming the barrier of Maritime Continent: Background fields affecting MJO propagation and the seasonality of the effects. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference: Session 06 P27, July, Sapporo. (poster)
- 高橋日出男 2024. 多摩地域の気候特性と地球温暖化に伴う近年の暑熱環境. 令和 6 年度南多摩農業改良普及事業フォーラム. 12 月, 日野. (招待講演)
- 高橋 洋 2025. A trial product of daily precipitation (GPC/m: Global Precipitation Climatology by Machine Learning). GPM および衛星シミュレータ合同研究集会要旨集: 11, 3 月, 名古屋.
- 高橋 洋 2025. 2022 年のパキスタンの洪水に関わる南アジアモンスーントラフ上の熱帯擾乱活動と年々変動. モンスーン研究集会, 2 月, 名古屋.

- Takahashi, H. G. 2024. Precipitation characteristics of the Asian monsoon associated with land-atmosphere coupling processes using high-resolution models and satellite data. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference: 20-P59, July, Sapporo. (poster)
- Takahashi, H. G., Sugimoto, S. and Sato, T. 2024. Impact of spring land-surface conditions over the Tibetan Plateau on the early summer Asian monsoon using an AGCM large ensemble. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference, July, Sapporo.
- 高屋浩介・藏田典子・伊勢武史・飯島慈裕 2025. 深層学習モデルによる人工衛星 Sentinel-2 画像の分析:環境変動の検出. ArCS II 最終成果報告会, 3 月, 立川. (ポスター)
- 大和広明・高橋日出男・三上岳彦 2025. 首都圏における夏季晴天日の日最高気温の長期変化傾向—高密度気温観測網のデータを用いて—. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 310, 3 月, 世田谷区.

3 環境地理学研究室

1) スタッフ

教授：川東 正幸（土壌生態学、環境化学、生態系の物質循環）

教授：吉田 圭一郎（植生地理学、生物地理学、人と自然とのかかわり）

助教：Payandi-Rolland Dahedrey（生物地球科学、環境動態解析、北極域の環境変動）

特任助教：山科 千里（生態学、自然地理学、植物と動物の関わり）

2) 研究概要

この研究室では、環境と人間とのダイナミックな関係に着目しながら、地域・地球環境の変化をいろいろな時・空間スケールの局面でとらえて、総合的に理解しようとする研究を展開している。そのため、自然地理学を基礎にして、土壌生態学、植物生態学、植物社会学、微生物学、林学、環境化学などの諸科学と密接な連携を保ちながら、幅広い研究活動を行っている。研究手法としては、現地での土壌調査、植生調査、陸水調査、聞き取り調査などの調査・モニタリング観測を基本として、リモートセンシングデータ等の利用・解析および現地で採取した各種の環境試料の理化学分析による環境動態の把握、分析・調査法の開発にも取り組んでいる。研究地域は国内から広く海外に及び、海外では、ヨーロッパ、モンゴル、中国、東南アジア、南アメリカ、太平洋島嶼の各地域で、寒帯・熱帯・亜熱帯・半乾燥・砂漠地域の環境変化と人間対応の研究に重点を置いている。最近の主要なテーマには、以下のものがある。

1. 国内外における環境変動のモニタリングと短期・長期変化予測
2. 様々な陸域生態系における人間活動の環境影響評価
3. 生態系に影響を及ぼす廃棄物の環境動態解析
4. 気候変化にともなう山岳域での植生帯移動
5. 地形に影響を受けた森林動態の長期モニタリング
6. 熱帯半乾燥域における自然環境の保全と持続可能な利用

3) 研究成果（2024 年度）

原著論文・展望論文（査読付きの論文）

Bakker, M., Legout, C., Biron, R., Nord, G., Bouteiller, C.L., Boithias, L., Camenen, B., Cotel, S., Coulaud, C., Denis, H., Dramais, G., Droujko, J., Fovet, O., Freche, G., Grippa, M., Coz, J.L., Lucas, A., Martinez, J.-M., Meric, F., Mora, H., Némery, J., Payandi-Rolland, D., Pierrefeu, G., Probst, A., Probst, J.-L., Raclot, D., Ribolzi, O., Rousseau, C., Salvador-Blanes, S., Santini, W., Seve, F., Thollet, F., Vanhooydonck, P. and Zanker, S. 2024. Intercomparison of optical scattering turbidity sensors for a wide range of suspended sediment types and concentrations.

- CATENA **245**: 108307. <https://doi.org/10.1016/j.catena.2024.108307>
- Battulga, B., Munkhbat, D., Matsueda, M., Atarashi-Andoh, M., Bolormaa, O., Koarashi, J. and Kawahigashi, M. 2024. Uncovering the characteristics of plastic-associated biofilm from the inland river system of Mongolia. *Environmental Pollution* **357**: 124427. <https://doi.org/10.1016/j.envpol.2024.124427>
- Joffre, M., Sauvage, S., Macary, F., Bahi, A., Tournebize, J., Probst, A., Probst, J.-L., Payandi-Rolland, D. and Sánchez-Pérez, J.M. 2024. The role of ponds in pesticide dissipation at the catchment scale: The case of the Save agricultural catchment (Southwestern France). *Science of The Total Environment* **934**: 173131. <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2024.173131>
- 梶原拓人・川東正幸 2024. 多地点土壌観測に基づく海岸防災林植栽基盤の生育環境評価—仙台平野の海岸防災林を対象として—. 森林立地 **66(2)**: 51-60. https://doi.org/10.18922/jjfe.66.2_51
- Morishita, M., Ise, Y., Hayano, M., Maejima, Y. and Takata, Y. 2025. A binary prediction model to assess the oxidation of Gley Lowland soils in Japan. *Soil Science and Plant Nutrition*: 341-352. <https://doi.org/10.1080/00380768.2024.2448453>
- Munkhbat, D., Battulga, B., Bolormaa, O. and Kawahigashi, M. 2024. Dynamics of plastic debris and its density change between river compartments in the Tuul River system, Mongolia. *Environmental Science and Pollution Research* **31**: 65548-65558. <https://doi.org/10.1007/s11356-024-35584-w>
- Nishikura, S. and Kawahigashi, M. 2024. Effect of particle size distribution of sediments on development of polder soils in Japan. *Journal of Soils and Sediments* **25**: 625-634. <https://doi.org/10.1007/s11368-024-03831-9>

その他の論文(査読なしの論文, 紀要・単行本の分担執筆を含む)

- 川東正幸 2024. 肥沃な土地がコンクリートで覆われている? 望星 2024 年 8 月号, 16-22. 東海大学出版会.
- Munkhbat, D., Miyao, Y., Payandi-Rolland, D. and Kawahigashi, M. 2025. Plastic litter distribution along the Japanese coastal areas. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 113-120.
- 高田裕介・早野美智子・森下瑞貴・滝本貴弘・小林創平・望月賢太・古賀伸久・原 嘉隆 2025. 圃場一筆毎の肥効が見える化 —AI-土壌図と土壌環境 API の開発—. 農研機構研究報告 **20**: 43-52.

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

- 吉田圭一郎(代表)ほか 2024. 『新選地理総合(令和 8 年度 高等学校用 文部科学省検定済教科書)』実教出版.

報告書

なし

書評

なし

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

なし

講演・学会発表

濱 侃・吉田圭一郎・比嘉基紀 2024. 森林限界付近の植生調査における UAV リモートセンシングの活用. 2024 年日本地理学会秋季学術大会発表要旨集 **106**: 73, 9 月, 名古屋.

https://doi.org/10.14866/ajg.2024a.0_95

Higa, M. and Yoshida, K. 2024. Vegetation structure and site environment on the Okara-sawa alluvial fan, Mt. Rishiri, Hokkaido, Japan. *The 14th Conference of International Consortium of Landscape and Ecological Engineering*, October, Kitakyushu.

細渕有斗・吉田圭一郎 2025. UAV を用いた風衝地における偏形樹分布と風環境の推定. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 187, 3 月, 世田谷区.

https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_265

梶原拓人・川東正幸 2025. 海岸林における植栽基盤材料とリターフォールが土壌生成にもたらす影響. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 186, 3 月, 東京.

梶原拓人・川東正幸 2024. 海岸林植栽基盤にみられる空間不均一性の考察—仙台平野の海岸林を対象として—. *ペドロジスト* **68(2)**: 101, 10 月, 新潟.

梶原拓人・川東正幸 2024. 空間統計解析を用いた海岸林植栽基盤の生育環境評価—仙台平野の海岸林を対象として—. *日本土壌肥料学会講演要旨集* **70**: 82, 9 月, 福岡.

Kawahigashi, M., Takahashi, T. and Kida K. 2024. Soil developmental process of human transported materials. *Proceedings of The 7th International Soil Classification Congress*: 15, June, Obihiro.

Kida, K., Ono, K., Imai, A. and Kawahigashi, M. 2024. Soil development stage should be expressed in designation of human transported master horizons. *Proceedings of The 7th International Soil Classification Congress*: 39, June, Obihiro.

小関祐之・吉田圭一郎・牛山素行・堀 和明・高橋信人 2025. 地理総合における防災教育の現状と課題. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 279, 3 月, 世田谷区.

https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_61

- Morishita, M. 2024. Data-intensive approaches to updating and utilizing the soil map in Japan. *2024 AFACI-BSWM-FFTC International Workshop & Symposium on Development of the Soil Atlas of Asia and National Soil Information Systems for Soil Health and Other Applications*, June, Quezon, Phillipines. (招待講演)
- 森下瑞貴・藤田一颯・石塚直樹 2024. ドローン空撮画像を用いた空間的圃場診断技術の開発 — グラウンドトゥールースデータに応じた解析手法の比較 —. *ペドロジスト* **68(2)**: 100, 10 月, 新潟.
- 森下瑞貴・佐原拓海・櫻井 玄 2024. 各市町村における低地土群の分布傾向に応じた水稻収量の比較. *日本土壤肥料学会講演要旨集* **70**: 89, 9 月, 福岡.
- Munkhbat, D. and Kawahigashi, M. 2024. The microplastic dynamics between river surface water and sediment compartments. *MICRO 2024*, September, Spain.
- Munkhbat, D. and Kawahigashi, M. 2024. The plastic distribution patterns and fertilizer capsule occurrence along the Niigata and Yamagata prefecture seashores, Japan. *Abstracts of Japan Geoscience Union Meeting 2024*: AHW22-P22, May, Chiba.
- Payandi-Rolland, D., Shirokova, L.S., Benezeth, P., Manasypov, R.M. and Pokrovsky, O.S. 2024. Dissolved and colloidal organic carbon and trace metals in thermokarst lakes of the Western Siberia Lowland. *Abstracts of Japan Geoscience Union Meeting 2024*: MIS14-11, May, Chiba.
- Payandi-Rolland, D., Yadamsuren, G., Tserendondiv, S., Orgilbold, M. and Kawahigashi, M. 2024. The case of Mongolian peatland, livestock herding and water quality. *The Society of Wetland Scientists (SWS2024)*, November, Taipei, Taiwan.
- 櫻井 玄・森下瑞貴 2024. 土壌分類と作物生産性の関係に関する複数作物の広域統計解析. *日本土壤肥料学会講演要旨集* **70**: 89, 9 月, 福岡.
- 高橋拓也・川東正幸. 2024. 土壌理化学性の地球統計学的解析による造成緑地の土壌生成過程. *ペドロジスト* **68(2)**: 97, 10 月, 新潟.
- Takahashi, T. and Kawahigashi, M. 2024. Spatial variation of soil properties with pedogenesis of the planting base in a landfill site. *Proceedings of The 7th International Soil Classification Congress*: 10, June, Obihiro.
- 手代木功基・吉田圭一郎・山科千里・濱 侃 2025. 富士山北西斜面における樹木限界の規定要因: 高精細地理情報を用いた検討. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 183, 3 月, 世田谷区. https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_104
- 手塚麻里・川東正幸 2024. 太陽光パネルの設置が土壌に及ぼす影響の評価. *日本土壤肥料学会関東支部山梨大会講演要旨集*: 19, 11 月, 甲府.
- Yadamsuren, G., Yamkhin, J., Kawahigashi, M. and Batbayar, N. 2024. Ground temperature regime of isolated permafrost in northeastern Mongolia. *12th International Conference on Permafrost*: 16-20, June, Whitehorse, Canada. (Online)
- 山崎悠太 2024. コスラエ島・オマ山の東斜面における熱帯山地雲霧林の分布と立地環境. 2024

年日本地理学会秋季学術大会発表要旨集 **106**: 75, 9 月, 名古屋.

https://doi.org/10.14866/ajg.2024a.0_57

吉田光翔・吉田圭一郎・武生雅明・磯谷達宏 2025. 植生帯境界域における構成樹木の種間関係の標高変化. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 188, 3 月, 世田谷区.

https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_117

吉田光翔・吉田圭一郎・武生雅明・磯谷達宏 2024. 植生帯境界域における標高により異なる樹木の空間分布. 植生学会第 29 回大会講演要旨集: 62, 10 月, つくば.

吉田圭一郎 2025. 構成種の動態プロセスからみた森林限界の形成と気候変化にともなう移動. シンポジウム: 植生地理学のこれまでとこれから—地理学的視点からの植生研究の進展をめざして—. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 189, 3 月, 世田谷区.

https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_157

吉田圭一郎・濱 侃・吉田光翔 2025. 植生帯境界における地形と関連した樹高の空間分布. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 52, 3 月, 世田谷区.

https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_153

吉田圭一郎・濱 侃・吉田光翔 2024. 近接リモートセンシングを用いた植生帯境界における地形と関連した森林構造と樹木活動の把握. 植生学会第 29 回大会講演要旨集: 49, 10 月, つくば.

吉田圭一郎・比嘉基紀・濱 侃・若松伸彦 2024. 利尻山の溶岩流地形に対応した植生分布とその形成プロセス. 2024 年日本地理学会秋季学術大会発表要旨集 **106**: 74, 9 月, 名古屋.

https://doi.org/10.14866/ajg.2024a.0_85

4 地理情報学研究室

1) スタッフ

教授：松山 洋（水文気象学、陸面-大気相互作用、統計解析、プログラミング）

助教：泉 岳樹（都市気候学、地理情報システム、数値気象モデル）

助教：中山 大地（数値地形学、地理情報システム、リモートセンシング）

特任研究員：渡邊 貴典（都市気候学、大気化学、大気質モデル）

2) 研究概要

本研究室では、主に、地形・気候・水文・植生などから構成される自然環境についての総合的理解を目指している。具体的には、質量保存・エネルギー保存・運動方程式などの物理法則に基づいて、原因から結果を説明しようとするアプローチと、フィールドでの調査・観測に基づいて事実を実証的に示そうとするアプローチを組み合わせる研究を進めている。このため、定量的データの収集・マッピング・統計解析・数値モデル・GIS（地理情報システム）などが主要な研究手法となっている。

教員の研究と大学院生・卒論生の指導、および地理環境科学調査法 IV を通じて取り組んでいきたいテーマには次のようなものがある。

1. 大気圏・水圏のエネルギーと水の循環に関する研究
2. 積雪分布および積雪水資源量の把握と融雪-流出に関する研究
3. 針葉樹の分光反射特性と葉面積指数の定量的評価に関する研究
4. 阿蘇周辺および東京周辺の水環境に関する研究
5. 都市気候と局地風の数値シミュレーションに関する研究
6. GIS を活用した都市の地表面状態の把握に関する研究
7. 自然環境と自然災害のモニタリング・モデリングに関する研究
8. 近代東京における地理的事象の定量的把握

3) 研究成果（2024 年度）

原著論文・展望論文（査読付きの論文）

Matsuyama, H. 2024. Causes for the occurrence of severe drought at the Ogasawara (Bonin) Islands during the El Niño event in 2018–2019. *Atmosphere* **15**: 1005.

<https://doi.org/10.3390/atmos15081005>

Sunako, S., Fujita, K., Yamaguchi, S., Inoue, H., Immerzeel, W., Izumi, T. and Kayastha, R. 2024. Quality assessment of multiple UAV-SfM DEMs derived for impact assessment of a co-seismic avalanche in the Himalayas. *Journal of Disaster Research* **19**: 865-873.

<https://doi.org/10.20965/jdr.2024.p0865>

- 鈴木健介・松山 洋 2024. 小笠原諸島父島は 21 世紀も乾燥化しているのか—2000 年前後の気候の違いに着目して—. 地学雑誌 133: 533-547. <https://doi.org/10.5026/jgeography.133.533>
- 鈴木健介・齋藤 仁・松山 洋 2024. 春(3 月第一週)の阿蘇地方では降水が生じやすくなっているのか?—阿蘇の風物詩「野焼き」に注目して—. 地学雑誌 133: 129-141. <https://doi.org/10.5026/jgeography.133.129>
- 東京地学協会 日本地学史編纂委員会(松山 洋が委員の一人) 2024. 戦後日本の地学(昭和 20 年~昭和 40 年)<その 8>—「日本地学史」稿抄—. 地学雑誌 133: 219-240. <https://doi.org/10.5026/jgeography.133.219>
- 吉田圭佑・中山大地・松山 洋 2024. 光学衛星画像と数値標高モデルを用いた機械学習による土砂災害発生箇所検出モデルの構築—複数事例を学習した決定木モデルを用いて—. 日本リモートセンシング学会誌 44: 317-334. <https://doi.org/10.11440/rssj.2023.010>

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

- 藤塚吉浩 2024. ロンドン東部におけるジェントリフィケーションと地誌学習. 新地理 72(1): 72-79.
- 藤塚吉浩 2024. ジェントリフィケーション. 経済地理学会編『経済地理学事典』394-395. 丸善出版.
- 松山 洋 2025. 日本の水のジオストーリー 1. 大森聡一・宮下 敦編『ジオストーリー』191-210. 放送大学教育振興会.
- 松山 洋 2025. 日本の水のジオストーリー 2. 大森聡一・宮下 敦編『ジオストーリー』211-227. 放送大学教育振興会.
- 南里翔平 2025. 中高の現場における生成 AI の現状と課題. 広島大学高等教育研究叢書 177: 61-72.
- 根元裕樹 2025. <徹底活用! ICT>歴史学習にもつながる GIS の紹介. 帝国書院編『地歴・公民科資料 ChiReKo2024 年度 3 学期号』24-27. 帝国書院.
- Watanabe, T. I. and Yoshida, K. T. 2025. Automated volcanic glass shard counting system for cryptotephra analysis using open-source hardware and software. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* 60: 121-128.

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

なし

報告書

なし

書評

- 松山 洋 2025. 書評(水野一晴: 京大地理学者, なにを調べに辺境へ?). 地理学評論 98A: 25-

26.

- 松山 洋 2025. 書架 (Korstanje, J. Machine learning on geographical data using Python). 地理 70(2): 104.
- 松山 洋 2025. 書評 (東京大学 気候と社会連携研究機構編: 気候変動と社会—基礎から学ぶ 地球温暖化問題). 地理学評論 98A: 68-69.
- 松山 洋 2024. 書評 (専修大学文学部環境地理学科編: 山地と人間). 地理学評論 97A: 206-207.
- 松山 洋 2024. 書架 (日本地下水学会編: 図説 日本の湧水—80 地域を探るサイエンス—). 地理 69(6): 105.
- 松山 洋 2024. 書評 (近藤純正: 身近な気象のふしぎ). 地理学評論 97A: 252-253.
- 松山 洋 2024. 書評・紹介 (伊藤達雄・鈴木康弘編著: 持続的社会づくりへの提言—地理学者三代の百年). 地学雑誌 133: N61-N62.
- 松山 洋 2024. 書評 (丸山浩明: アマゾン五〇〇年—植民と開発をめぐる相剋). 地理学評論 97A: 313-314.
- 松山 洋 2024. 書架 (ウィリアム・ノートン, マーガレット・ウォルトン=ロバーツ著, 山本正三・菅野峰明・田林 明・菊地俊夫訳: 文化地理学 環境, 景観, アイデンティティ, 不平等). 地理 69(10): 104.
- 松山 洋 2024. 書評 (吉水裕也: 地理的な見方・考え方を働かせた地理授業デザイン). 地理学評論 97A: 368-369.

その他の報文 (技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

- 長谷川宏一 2024. 災害大国の自然の恵みと人の営み. 地理 69(9): 88-94.
- 松山 洋 2024. 新幹線の列車名 (愛称名) はこうあるべきである. 山路 (TWV OB 会通信 2025 年): 47-49.

講演・学会発表

- 青柳佑哉・齋藤 仁 2024. 複数シナリオを想定した津波避難施設の到達圏分析による避難困難区域の予察的検討. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: HDS10-P09, 5 月, 千葉.
- 藤塚吉浩 2025. ジェントリフィケーション—ロンドン東部スピトルフィールズの事例. 大阪公立大学 生涯学習・公開講座.
<https://www.omu.ac.jp/lifelong-learning/course/movie/index.html>
- 藤塚吉浩 2024. 東京における産業の変化とジェントリフィケーション. 2024 年人文地理学会大会 研究発表要旨: 74-75, 11 月, 東大阪.
- 菅野洋光 2025. 島嶼における気候について考察する—キリバス共和国との比較—. 東京都立大学 公開講座, 3 月, 父島.
- 菅野洋光 2025. 児玉安正さんのヤマセ研究について. 第 20 回ヤマセ研究会, 2 月, 盛岡.

- 松山 洋 2025. 2018～2019 年はエルニーニョ現象が発生していたのに、なぜ小笠原は干ばつになったのか？ 東京都立大学公開講座, 3 月, 父島.
- Matsuyama, H., Nodzu, M. I. and Matsumoto, J. 2024. Ground evaluation of the GPM observation and the GSMap data over the Izu and Ogasawara Islands. The Joint PI Meeting of JAXA Earth Observation Missions, FY2024. November, Chuo-ku.
https://pco-prime.com/pi_joint_ws2024/program/pdf/gpm_pmm.pdf
- 中山大地 2024. GIS Day in 東京 2024 E コース「scikit-mobility を用いた行動パターンの分析入門」. GIS Day in 東京 2024, 12 月, 八王子.
- 小野 洋・菅野洋光・野口眞貴子 2024. キリバス共和国における水道事業と水質変化. 日本国際地域開発学会 2024 年度秋季大会講演要旨集: 33-34, 11 月, 弘前.
- 當麻央介・齋藤 仁 2025. D-InSAR を用いた南アルプスにおける活動性地すべりの時系列解析—諸子沢地すべりを事例に—. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 256, 3 月, 世田谷区.
https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_84
- 當麻央介・齋藤 仁 2025. 南アルプス・諸子沢地すべりにおいて D-InSAR により観測された斜面変動. 東京大学地震研究所共同利用 PIXEL2024 年度研究集会: Session 3-2, 2 月, 文京区.
- 當麻央介・齋藤 仁 2024. 深層崩壊の地形特徴量の予察的解析—高知県東部を事例に—. 2024 年日本地理学会秋季学術大会発表要旨集 **106**: 187, 9 月, 名古屋.
https://doi.org/10.14866/ajg.2024a.0_68
- 武田和夫・中山大地・松山 洋 2025. MAS を用いた観光地の混雑の再現と解決策の検討—神奈川県藤沢市江の島を事例に—. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 108, 3 月, 世田谷区.
https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_215
- 土屋日菜・松山 洋 2024. 方向別バリオグラムを用いた線状降水帯の長軸・短軸比の抽出および降水量閾値の検討. 水文・水資源学会 2024 年度研究発表会, 9 月, 江東区.
https://doi.org/10.11520/jshwr.37.0_21
- Tsuchiya, H. and Matsuyama, H. 2024. Extraction of aspect ratio of quasi-stationary band-shaped precipitation systems, named “Senjo-Kousuitai” using directional variogram along with its evaluation. 9th Global Energy and Water Exchanges Open Science Conference, July, Sapporo.
- 山本あゆ夏・齋藤 仁 2024. Random forest を用いた赤土流出の陸域環境要因と空間的差異の検討. CSIS DAYS 2024 全国共同利用研究発表大会研究アブストラクト集: A17, 11 月, 柏.
- 山本あゆ夏・齋藤 仁 2024. サンゴ礁生態系の衰退に影響を及ぼす赤土流出の陸域環境要因とその地域的差異の検討. 日本サンゴ礁学会第 27 回大会要旨集: P-65, 11 月, 宮崎.
- 山本あゆ夏・齋藤 仁 2024. 石垣島・西表島における赤土流出の陸域環境要因とその空間的差異. 2024 年日本地理学会秋季学術大会発表要旨集 **106**: 63, 9 月, 名古屋.
https://doi.org/10.14866/ajg.2024a.0_144

- 山本あゆ夏・齋藤 仁 2024. サンゴ礁衰退の原因となる赤土流出の陸域環境要因とその地域的差異—石垣島・西表島を対象として—. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: HGG02-06, 5 月, 千葉.
- 吉田圭佑・中山大地・松山 洋 2025. C バンド SAR 衛星データに基づく機械学習モデルを用いた浸水域の抽出. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 196, 3 月, 世田谷区.
https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_235
- 吉田圭佑・中山大地・松山 洋 2025. 機械学習モデルを用いた C バンド SAR 衛星データに基づく浸水域の抽出. 第 27 回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム, 2 月, 千葉.

5 都市・人文地理学研究室

1) スタッフ

准教授：滝波 章弘（地誌学, 表象分析, 地域文化論, フランス語圏研究）

准教授：田中 雅大（社会地理学, 地図学, 地理情報科学）

准教授：矢部 直人（都市地理学, 計量地理学）

助教：坪本 裕之（都市地理学, オフィス研究）

2) 研究概要

この研究室は、人文地理学の分野を研究するグループである。人間との関係における地域ないし空間の問題を、人文・社会科学側面からアプローチし、多様な人文現象の構造的な説明・解釈を目的としている。現在行なわれている研究は、様々なレベルに分類できる。対象地域としては、都市とその周辺地域を中心とし、事象としては産業活動、人間行動や意識、その他の種々の人文・社会現象、方法論としては計量的方法、統計的実証的手法、フィールドワーク、および文献検証的手法が使われ、対象時期は歴史時代より現代までおよぶ。「専門は深く」、「関心は広く」を標語にして、次のような研究が行われている。

- 1 数理モデルによる人文地理的現象の解析：
 - 1.1 経済活動の立地
 - 1.2 人・物の移動と情報の伝播
 - 1.3 頭の中にイメージする地図と空間的行動
 - 1.4 時間地理学的研究
- 2 地域研究による人文地理的現象の解析：
 - 2.1 人間や経済活動や文化活動と環境との関わり合いに関する研究
 - 2.2 都市近郊における土地利用変化と諸事象の地域形成に関する研究
 - 2.3 人間がつくる地域組織や社会組織に関する研究
 - 2.4 環境変化にともなう人間活動の変容に関する研究
- 3 都市システムの解析：
 - 3.1 都市内部の空間構造の研究
 - 3.2 都市群のシステム論的研究
- 4 空間表象研究：
 - 4.1 空間言説分析
 - 4.2 文化地理学
 - 4.3 風景論

5 地理思想の研究:

- 5.1 現代地理学の研究史
- 5.2 地理学研究分野の計量書誌学的研究
- 5.3 地図論

3) 研究成果(2024 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

坪本裕之 2024. 大規模ニュータウンの居住者調査を中心とした東京郊外の働く場所と住まいについての考察. 経済地理学年報 **70**: 46-57.

于 燕楠 2024. 旅行業者の経営的要因からみる地方部を訪れる訪日旅行商品—富山県を訪れる台湾・中国発の旅行商品を事例に—. *E-journal GEO* **19**: 165-177.

<https://doi.org/10.4157/ejgeo.19.165>

Yabe, N. 2024. Mapmaking process reading from local distortions in historical maps: A geographically weighted bidimensional regression analysis of a Japanese castle map. *ISPRS International Journal of Geo-Information* **13**: 124. <https://doi.org/10.3390/ijgi13040124>

柳田裕紀 2024. 地理的加重回帰を用いた学力の地域差に関する分析—埼玉県を事例として—. *E-journal GEO* **19**: 192-207. <https://doi.org/10.4157/ejgeo.19.192>

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

小泉 諒 2025. 2024 年の東京で働き暮らすことの地理的分析. 関東都市学会年報 **26**(印刷中).

小泉 諒 2024. 城下町小田原でひろがる, 新しい都市スタイル. 平山 昇編『大学の神奈川ガイド』255-266. 昭和堂.

小泉 諒 2024. シカゴ学派と同心円モデル. 経済地理学会編『経済地理学事典』382-383. 丸善出版.

小泉 諒 2024. 住宅双六. 経済地理学会編『経済地理学事典』390-391. 丸善出版.

Takinami, A. 2025. How newspaper discourse and place characteristics interact: Evidence from World Cup articles of Le Monde. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 105-112.

U, Y. 2025. Evolution of tourism destination network: the case of Chinese package tours to Japan from 2006 to 2016. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* **60**: 129-138.

若林芳樹 2024. 地理情報システム. 経済地理学会編『経済地理学事典』582-583. 丸善出版.

矢部直人 2024. リーマン・ショック. 経済地理学会編『経済地理学事典』180-181. 丸善出版.

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

アツシュ, J.・キッチン, R.・レシュチンスキ, A. 編著, 田中雅大監訳, 二村太郎・桐村 喬・小泉 諒訳 2025. 『デジタル・ジオグラフィーズ—変容する空間、地理学の変容—』明石書店.

報告書

なし

書評

- 若林芳樹 2025. 書評(サンソン, M.『世界は「見えない境界線」でできている』). 地理 70(1): 105.
- 若林芳樹 2025. 書評(児島恭子『アイヌ語地名の歴史』). 地理 70(2): 102.
- 若林芳樹 2025. 書評(チェシャー, J., ウベルティ, O.『地図は語る—データがあぶり出す真実』). 地理 70(3): 104.
- 若林芳樹 2025. 書評(桐村 喬・上杉昌也・米島万有子・相 尚寿・鈴木重雄『基礎から学ぶ GIS・地理空間情報』). 地図 63(1): 25.
- 若林芳樹 2024. 書評(ドイッチャー, G.『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』). 地理 69(5): 106.
- 若林芳樹 2024. 書評(萩原和樹『データ思考入門』). 地理 69(6): 103.
- 若林芳樹 2024. 書評(リュジェリ, C.『地図とデータで見る現代都市の世界ハンドブック』). 地理 69(7): 105.
- 若林芳樹 2024. 書評(荒木雅也『地理的表示と日本の地域ブランドの将来』). 地理 69(9): 103.
- 若林芳樹 2024. 書評(NHK 取材班『人口減少時代の再開発「沈む街」と「浮かぶ街」』). 地理 69(10): 102.
- 若林芳樹 2024. 書評(モレノ, C.『15 分都市—一人にやさしいコンパクトな街を求めて—』). 地理 69(11): 102.
- 若林芳樹 2024. 書評(吉田容子・影山穂波編著『ジェンダーの視点で読む都市空間』). 地理 69(12): 105.

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

- 若林芳樹 2024. 新書架委員紹介 自己紹介&おすすめの 3 冊. 地理 69(4): 121-122.
- 若林芳樹 2024. 地図リテラシー専門部会の紹介. 地図 63(4): 29.
- 山本将大 2025. レイヤを重ねることに特化した地図ビューアの開発. 測量 75(1): 60-61.

講演・学会発表

- 荒堀智彦 2025. 化学物質汚染における汚染ハザードマップと地理空間情報の活用—有機フッ素化合物(PFASs)に関する情報配信の事例—. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 107: 278, 3 月, 世田谷区. https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_321

- 荒堀智彦 2024. 保健指標を活用した健康リスク評価: 障害調整生存年 (DALY) と疾病地図による地理的疾患負荷の分析. 日本地球惑星科学連合 2024 年大会: HTT17-02, 5 月, 千葉. (招待講演)
- 荒堀智彦 2024. 有機フッ素化合物 (PFAS) におけるリスク情報の発信—ハザードマップによる空間的思考と意思決定支援に向けた議論—. 第 37 回日本リスク学会講演論文集 37: 15-17, 11 月, 静岡.
- 平間一樹・矢部直人・横田賀英子・大塚祐輔・古橋健悟・渡邊和美 2024. 犯罪発生に関わる人間の空間移動パターン—仙台都市圏において発生した街頭犯罪に着目して. 第 33 回地理情報システム学会学術研究発表大会, 10 月, 宇治. (ポスター)
- 小泉 諒 2024. 2024 年の東京で働き暮らすことの地理的分析. 関東都市学会 2024 年度春季大会シンポジウム, 5 月, 文京区. (招待講演)
- 栗城亮大 2025. 大都市圏郊外における新たな公共交通としての都市型シェアサイクルの有効性と課題. 2024 年度全国地理学専攻学生卒業論文発表大会, 3 月, オンライン.
- 栗城亮大 2025. 大都市圏郊外における新たな公共交通としての都市型シェアサイクルの有効性と課題. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 107: 280, 3 月, 世田谷区 (ポスター). https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_59
- 栗城亮大 2024. 札幌市中心部におけるシェアサイクルポートの立地特性. 2024 年度北海道地理学会春季大会, 6 月, オンライン.
- 栗山絵理・山本将大・岡本耕平・小口 高・大西宏治・斎藤 敦・鶴岡謙一・山内啓之・若林芳樹 2024. 今昔マップの補完方法の検討. 2024 年度日本地図学会定期大会, 8 月, 千代田区. https://doi.org/10.11212/jjca.62.Supplement_7
- Matsumoto, A., Hata, T. D., Nagasawa, N. Tanaka, M. and Yokoyama, Y. 2024. Place attachment in a tower block neighborhood: Does “Tawaman” dissolve the diversity of the community and place identity? The 28th International Association People-Environment Studies Conference, July, Barcelona, Spain.
- 松本阿礼・大沼若奈・畑 倫子・田中雅大・長澤夏子・横山ゆり子 2024. 郊外再開発地域へのプレイスアタッチメントに関する研究 その 1—神奈川県川崎市・武蔵小杉居住者へのインタビュー調査—. 日本建築学会大会 (関東), 8 月, 千代田区.
- 森 智浩 2024. 夕張市における石勝線夕張支線廃止の経緯と利便性の変化. 2024 年度北海道地理学会春季大会, 6 月, オンライン.
- 大沼若奈・松本阿礼・畑 倫子・田中雅大・長澤夏子・横山ゆり子 2024. 郊外再開発地域へのプレイスアタッチメントに関する研究 その 2—神奈川県川崎市・武蔵小杉居住者へのアンケート調査—. 日本建築学会大会 (関東), 8 月, 千代田区.
- 齋藤敦子・石崎真弓・岡田孝介・坪本裕之・野間 操 2025. ABW と SOF 働き方と経営にファシリティがどう貢献できるのか?. 第 20 回日本ファシリティマネジメント大会, 2 月, オンライン.

- Tanaka, M. 2024. Are human geographers cartographers?: Usage of maps in Japanese human geography papers. 35th International Geographical Congress 2024, August, Dublin, Ireland.
- Tanaka, M. 2024. Promotion of barrier-free environment through participatory GIS: A case study of tactile paving mapping project in Kita-ku, Tokyo. *Abstracts of Japan Geoscience Union Meeting 2024*, May, Chiba.
- 坪本裕之・桑原優太 2025. 2000 年以降の東京郊外多摩市における住宅供給と居住動向. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 284, 3 月, 世田谷区.
https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_243
- Wakabayashi, Y. 2024. Rethinking map literacy in the age of ubiquitous mapping. The First Asian Cartographic Conference (AsiaCarto 2024), December, Hong Kong.
- Wakabayashi, Y. 2024. Diversification of the suburbs of Tokyo amid population decline and aging: Focusing on the problem of housing vacancy and its countermeasures. 35th International Geographical Congress 2024, August, Dublin, Ireland.
- 矢部直人 2025. 食料の輸出入を通じた栄養分の移動を地図化する試み. 総合地球環境学研究所有機物循環プロジェクト第 4 回公開セミナー, 3 月, オンライン.
- 矢部直人 2025. WebGIS で考えるフードデザート問題. 2025 年度第 1 回地理総合オンラインセミナー, 3 月, オンライン.
- 矢部直人・若林芳樹 2025. コロナ禍における日本の居住地選好の変化—マルチレベル分析の結果. 2025 年日本地理学会春季学術大会発表要旨集 **107**: 269, 3 月, 世田谷区.
https://doi.org/10.14866/ajg.2025s.0_25
- Yagai, H. and Wakabayashi, Y. 2024. Time-geographic approach to evaluating public transportation service levels in the Sanriku region of Japan. The 5th International Time-Geography Conference, August, Toyama.

6 特定学術研究

産学共同研究費による研究 6 件

飯島慈裕:宇宙航空研究開発機構 地球観測研究公募共同研究「北東ユーラシアにおける複合衛星利用による降水変動および水循環研究」

松山 洋:宇宙航空研究開発機構 第 3 回地球観測研究公募「伊豆・小笠原諸島における GPM 観測および GSMap データの地上検証」

高橋日出男:東京都立大学・東京都環境科学研究所共同研究「東京における温暖化とゲリラ豪雨等局地的極端現象の実態解明に関する研究」

高橋 洋:宇宙航空研究開発機構 地球観測研究公募共同研究「25 年間の長期 TRMM-PR+GPM-DRP データと高解像度シミュレーションによるアジアモンスーン域の降水特性のトレンドと年々変動」

高橋 洋:防災科学技術研究所 共同研究「首都圏における雷の地域分布とその季節性に関する気候学的な研究」

高橋 洋:国立環境研究所 共同研究「東京都郊外における二酸化炭素濃度の観測と時空間変動の解析」

提案公募型研究費による研究 6 件

平峰玲緒奈:日本地理学会 2024 年度笹川科学研究助成「堆積物中の漂着軽石に基づく過去の海域火山噴火イベント解明の試み:南西諸島の漂着軽石濃集層を用いて」

平峰玲緒奈:2023 年度災害地理学研究助成「小笠原諸島父島・母島に漂着した軽石の給源火山推定の試み」

鈴木毅彦:国土地理協会 2023 年度学術研究助成「盛土・切土量マップ作成・表現法の改良・開発に関する研究」

高橋尚志:令和 6 年度栗駒山麓ジオパーク学術研究等奨励事業補助金「迫川の沖積低地の地形発達および伊豆沼・内沼の成立過程に関する研究」

高橋尚志:2024 年東北大学災害科学国際研究所災害レジリエンス共創プロジェクト「神奈川県柏尾川流域における地下文化遺産を活用した災害リスクの評価」

Yadamsuren Gansukh:長尾自然環境財団若手研究者育成プログラム「Indicators of environmental change on soil-vegetation-permafrost interaction in north-eastern wetland, Mongolia」

科学研究費補助金による研究 29 件

青木かおり:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的研究(萌芽)「3 世紀に軽石筏は出現したか?」

藤塚吉浩:日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(C)「パンデミック後の世界都市における都市再生の動向に関する地理学的研究」

濱田純一:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)「インドネシア海大陸域におけるモンスーンオンセットの気候学」

平峰玲緒奈:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 研究活動スタート支援「考古遺跡中の漂着軽石に基づく海域火山の噴火履歴解明の試み」

飯島慈裕:日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(A)「永久凍土荒廃による流域化がもたらす水文・生態・人間活動への影響」

飯島慈裕:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的研究(萌芽)「水循環変化に着目した日本の亜熱帯島嶼植生に関する気候影響評価」

石村大輔:日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「碎屑物の形状は何を語るか?一段丘・イベント堆積物の給源・運搬過程解明への応用研究」

石村大輔:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的研究(萌芽)「南シナ海の津波リスク評価に向けた海岸巨礫の分布把握と波源推定」

川東正幸:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)「河川中マイクロプラスチックの移動過程の解明ー表面特性と複合体形成に着目してー」

松山 洋:日本学術振興会 挑戦的研究(萌芽)「地球温暖化と山岳水河の消長のパラドックスー中国 天山山脈を事例に一」

根元裕樹:日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究(B)「高等学校必修教科目『地理総合』に向けた GIS 教材と授業案の開発」

西澤文勝:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究「記載岩石学的データセットの構築による箱根火山の中・後期更新世テフラ層序の高精度化」

瀬戸芳一:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)「関東平野の局地風系変化と沿岸域の海水温変動が夏季気温と強雨に及ぼす影響の解明」

瀬戸芳一:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究「近年の気圧配置型変化が関東平野の局地風系と気温分布に及ぼす影響の解明」

白井正明:日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)「構成物質の再移動・再堆積過程に着目したラハール堆積物の流下過程の研究」

鈴木毅彦:日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)「火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究」

高橋日出男:日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「東京首都圏における気温分布と局地風系場の構造および変動性に関する研究」

高橋 洋:日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A)「梅雨末期の豪雨の水蒸気起源の追跡ー水蒸気の立体構造の降水システムへの影響ー」

高橋 洋:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的研究(萌芽)「弱い台風が降水量の年々変動を決めるのか? ー弱い台風の気候学ー」

高橋 洋:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的研究(萌芽)「昼の豪雨と夜の豪雨の雲降水気候学」

高橋尚志:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究「河川上流域における支流の土砂供給様式の長期的変化過程の解明」

滝波章弘:日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)「社会問題に関わるフランス・アンティル出身元選手の言説とその地理的側面」

宇津川喬子:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究「ニューカレドニアの事例から捉える海岸侵食の実態:砂浜の形成過程からの考察」

若林芳樹:日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「デジタル社会における地図リテラシーの再構築」

若林芳樹:日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)「ポストコロナ時代における居住地選択モデルの再構築」

渡辺 樹:日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 特別研究員奨励費「連続的火山灰分析を用いた編年に基づく山体重力変形地形の形成・発達史」

矢部直人:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)「東アジアに特徴的な企業の社宅という視点からみたバブル経済崩壊後の都市空間の変化」

山科千里:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)「アフリカのサバンナにおいてシロアリ塚が生み出す生物多様性と生態系サービスの解明」

吉田圭一郎:日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(A)「高精細な地表面・植生情報を用いた山地植生の境界移動プロセスの解明」

7 学位論文

博士論文

2024 年 3 月修了

北林 翔(主査:高橋日出男)

Climatological study on seasonal differences in the impact of aerosols on global and regional climate (エアロゾルが全球および地域の気候に与える影響の季節差に関する気候学的研究)

Dolgormaa Munkhbat(主査:川東正幸)

Dynamics and behaviour of plastic debris in riverine environments (プラスチック断片の河川環境における挙動と動態)

修士論文

- 長田 健 能登半島南部周辺における鮮新-更新統テフラの岩石記載学的特性
- 中村 義也 様々な地形・地質条件における山体重力変形の主要発達要因の解明—高解像度 DEM に基づく検討—
- 橋本 真由 プリニアン降下堆積物中の火山ガラスの形態と運搬距離の関係—On-Pm1 を事例に—
- 山田 素子 青森県上北地域の海成段丘構成層における堆積環境の推定と鉱物組成の変化
- 熊 家辰 A study on the properties of the fallout and pyroclastic density current during the Hakone-Tokyo eruptive event (約 7 万年前箱根-東京噴火における降下物と火砕流堆積物の特性に関する研究)
- 青山 実樹 関東平野部における豪雨時のガストフロントの時空間構造
- 五味 すみれ 地上気象観測に基づく長野県諏訪地域の塩嶺嵐の特徴
- 杉浦 冬悟 マッデン・ジュリアン振動の湿潤静的エネルギー収支
- 原田 健生 冬季関東南岸に形成される収束線の移動と小低気圧発生との関係
- 小林 萌恵 標高に沿ったダケカンバのリーフフェノロジーと生長の地域差
- 高橋 拓也 地球統計学的解析による造成緑地の土壌生成過程
- 吉田 光翔 植生帯境界域における樹木の空間分布からみた植生変化とそのプロセスの解明
- 山崎 優 マルチエージェントシミュレーションを用いた避難所へのアクセシビリティ評価—多摩ニュータウン諏訪・永山地区を事例として—
- 吉田 圭佑 C バンド SAR 衛星データを用いた浸水域のロバストな抽出—後方散乱強度とコヒーレンスに着目して—
- 岡 瑞葉 レズビアン女性にとっての「新宿二丁目」とオンラインコミュニティ
- 柳田 裕紀 中学生の学校外教育機会へのアクセシビリティに関する研究—横浜・川崎を事例として—